

愛媛（大島・伯方島・大三島）と広島をつなぐ

”しまなみ海道“の道の駅

しまなみ海道の開通

1999年5月1日に、着工から四半世紀を経て10の橋のすべてが完成し、本州と四国を結ぶ3つ目の橋として全長59.4kmの今治から尾道までを50分で結ぶ西瀬戸自動車道（通称「瀬戸内しまなみ海道」）が開通しました。

開通当初は瀬戸大橋開通時を彷彿させる勢いで県内外から多くの人が、広島と愛媛の両県から瀬戸内海に浮かぶ島々へやって

来ました。

「しまなみ海道」が「瀬戸大橋」や「明石海峡大橋」と違って、最大の魅力は、自転車歩行者専用道路を併設しているため「自動車OK、自転車OK、徒歩OK」で瀬戸内海を渡れることです。

瀬戸内海の「多島美」を橋上から眺めるとエメラルドグリーンに輝く瀬戸内海は、あたたかもそれらの島々の緑が映し出されているかのように、きれいなグリーンです。

しかし、橋ができるまでは、これほど多

くの人を一度に受け入れたことがなかった静かな島々は大きな悲鳴を上げました。その一方、都会から来た人たちは一刻も早く橋を渡って目的地へ行くことを楽しみにしていたのですが、足は長時間止まったままで、大きなため息を連呼させてしまいました。そんな日々は一年ほどで終わりを迎えました。いわゆる「しまなみバブル」が崩壊しました。

しまなみ海道に求められたもの

近代化された街でアスファルトやコンクリートに囲まれた中で生活している都会の人たちの日々の生活は「利便性」と引き換えに自然を失い、人混みや排気ガスにまみれた空気の中で生活を送っており、一時の休息を求めてしまなみ海道を訪れたのです。

信号のない島もある位のゆったりとした道路、その両脇に広がるだんだん畑、懐かしさを感じる家屋、さわやかな磯の香り、草木や土の臭い、まるで幼い頃にタイムスリップしたような空間があります。訪れた人の中には、そういったものを求めて来た人もいたでしょう。

大日本総鎮守「大山祇神社」や西日光「耕三寺」

しまなみ海道ができて大三島の大山祇神社や生口島の耕三寺のように、以前より多くの人が訪れるようになった所もあります。

しまなみ海道は各々の島が貴重な観光地であり、今までは不便でなかなか行くことを思いつかなかった所でも、橋ができたこ

最後に完成した来島海峡大橋



マリノアシスはかた



伯方の塩

大島から「伯方・大島大橋」を渡ると次が伯方島です。伯方島といえば「伯方の塩」が有名です。県内では伯方工場・明浜工場・大三島工場の3工場で塩製品を製造しておりますが、大三島工場がメイン工場で見学もここだけで行っております。

「マリノアシスはかた」では、「伯方の塩ソフトクリーム」「塩ラーメン」が特にお勧めです。塩ソフトクリームを片手に白浜のビーチを散歩しながら夕陽を眺めるのは最

道の駅「伯方S・Cパーク」(伯方島)

道の駅おすすめセットといたしまして、「ローズセット」「大島海産物セット」「マルジョウ醤油・味噌セット」などがあります。



多々羅しまなみ公園



多々羅大橋



大山祇神社巨大クスノキ

高です。是非一度お越しください。

道の駅おすすめセットといたしまして、「はかたおすすめセット」「伯方の塩使用おやつセット」などがあります。

道の駅「多々羅しまなみ公園」(大三島)

当駅は世界有数の斜張橋の「多々羅大橋」のたもとにあるため、建物から一歩外に出ると瀬戸内海の景色と大橋が一望できます。

大三島といえば、大山祇神社が有名ですが、ここには、国宝8件、国の重要文化財75件(2008年現在)など国宝、重要文化財の指定を受けた日本の甲冑の約4割が保存されております。また、大三島には「鶴姫伝説」があつて、その鶴姫が着用したとされる日本に現存する唯一の女性用の胴丸もあり

ます。さらに、境内中央には国の天然記念物に指定されている樹齢2600年(根回り20m、高さ16m)の大楠があります。

ここでは、芋菓子、田舎味噌、農家直送新鮮柑橘類が有名ですが、ほかにも島いちごの和菓子がお勧めなので一度ご賞味ください。

道の駅おすすめセットとして、「多々羅温泉コスメセット」「大三島産柑橘」かがやき」100%ジュース2本入り」などがあります。

今のしまなみ海道

多くの方々の血と汗の結晶で完成した「来島海峡大橋」と「多々羅大橋」など10の橋ですが、その完成までには断腸の想いで自然あふれた山を切り開いて快適なドライ

渦だ～!



本三大急潮の1つ(他は鳴門海峡、関門海峡)ともいわれる難所「村上水軍発祥の地」を体験できるコースです。ほかに

橋ができてからは何度も島を訪れる人がいます。その人たちが地元の人に島の素晴らしさと薄れてしまった記憶を思い出させてくれたこともあります。橋上から眺める「多島美」と「瀬戸内の海」も美しいのですが、もつと間近に見ていたために漁船等で来島海峡大橋の下を中心に、大島下田水港から今治市波止浜港の間で「急流観潮船」を運航しております。日

人が集まるお勧めスポット

ピングを実現するために道を作った人など色々な想いを繋いだ「しまなみ海道」を多くの人が渡っておりま。しまなみ海道が全線開通して昨年は「10周年」を迎え、1年を通して数々のイベント等が行われましたが、それら10周年イベントは通行料金の「1000円効果」にも後押しされ盛大に行われました。

は世界でもここだけにしかない航海のルールを守る「仲渡島」の潮流信号や世界に誇る造船群「波止浜湾」、島全体が城跡となっている「来島」もあります。そして昨年約8000人も人が訪れた歴史遺産でもある芸予要塞跡「小島」は、日露戦争前に攻め来る敵艦の進入を防ぐため、島全体を要塞として作った島です。結果として敵艦は進入して来ずに、使用されなかった要塞を一度は取り壊し令を受け、演習目的で攻撃された島ですが、結局壊すことができず、当時の波止浜町が払下げを受け、今も当時のままで国立指定公園として残っております。(大砲は203高地「旅順の戦い」で使用され、今は砲座跡のみ)

これから

これらの場所には多くの人が訪れ多くの感動を呼び、そしてその本来の素晴らしさが再認識された場所といえるでしょう。

「しまなみ海道」は、愛媛県と瀬戸内海に浮かぶ6つの島(大島、伯方島、大三島、生口島、因島、向島)を結んで広島県まで続いており、橋ができたことで6島は離島ではなくなりまりました。今後は両県がこの恵まれた環境を最大限に利用しなければならないと考えております。

四国と本州は、しまなみ海道以外に児島・坂出ルート(瀬戸中央自動車道)と神戸・鳴門ルート(神戸淡路鳴門自動車道)の3つのルートで繋がっております。神戸・鳴門ルートは関西圏に一番近く、東京や関西の主

要都市などとダイレクトに結ぶ高速バスが数多く運行され一番利用者も多く、児島・坂出ルートは道路と鉄道の併用橋として開通し、日常の足として使われており、どちらも四国・本州を結ぶ基幹ルートで産業道路の意味合いが強いのですが、しまなみ海道は離島の生活や福祉に重点を置いた生活橋としての意味合いが強いといえます。そこからもう一歩進めて、本州や九州からの観光客をしまなみ海道に呼び込んで、瀬戸内の多島美と島の自然を満喫してもらい、橋でつながっていない島へまで足を伸ばしてもらおうように考える必要があります。

人が人を呼び四季折々の景色を映し出す島々があり、そして各島内の遺跡・史跡・建作物・大自然が生み出す産物を「島の宝」と想い大切に後世に引き継ぎ、その歴史の証人となる来島者に「癒し」の空間を感じて頂ける、そんな「道の駅」を目指したいと思っております。



亀老山より来島海峡大橋